

## 平成31年度平日夜間・休日における外来薬物(化学)療法体制整備事業について

医療機関	国家公務員共済組合連合会立川病院	都立駒込病院
施設特徴等	多摩地域 東京都がん診療連携協力病院	区部 都道府県がん診療連携拠点病院
実施体制 (実績報告より)	医師2名、看護師1名、薬剤師1名、検査技師1名、事務職員1名 月・木曜日 17:15-21:30	医師1名、看護師4名、薬剤師3名、臨床検査技師1名 土曜日 9:00-14:00
収支 (収入-支出)	▲ 2, 212, 062	▲ 58,886
主な取組状況等	<p><b>【患者へのアプローチ】</b> ・患者へのアピールについて、ホームページへの掲載及び院内デジタルサイネージへの掲載を実施した。(立川病院で通院中の方のみ対象)</p> <p><b>【体制整備・取組】</b> ・主治医の負担軽減策として、主治医から当番医に引き継ぐ運用を実施 ・患者数の増加に向け主治医へのインセンティブの支給を実施した。 ・患者数が増えると看護師の体制を強化する必要がある。 ・当初は乳腺外科の診療科が主であったが、後半は乳腺外科以外の診療(消化器外科、婦人科、呼吸器内科等)患者についても利用が拡大した。</p> <p><b>【収支】</b> ・収支状況を改善するためには患者数目標を1日6名とする必要がある。</p> <p><b>【その他】</b> ・コロナ感染症による影響、今後懸念されるなか、化学療法室入室前の検温等院内感染予防を厳重におこなうこととした。</p>	<p><b>【患者へのアプローチ】</b> ・安全性が担保できる規模で実施しているため、ホームページでの周知等は実施しなかった。担当医が対象になる患者をピックアップして、患者に希望の有無を聞いたうえで実施した。</p> <p><b>【体制整備・取組】</b> ・平日夜間について、当直医による実施も検討したが、経験や専門性にばらつきがある等の課題から実施は見送った。 ・土曜日のみ、日帰り入院の方法で、腫瘍内科で空床を利用して実施した。</p> <p><b>【収支】</b> ・薬剤費が高額であったことにより、赤字となった。出来高算定の高い薬品に絞れば、収益の改善の可能性もあるが、使用薬剤によって患者を選別することは本事業の趣旨に適合しないため、具体的な解決策は講じがたい。</p> <p><b>【その他】</b> ・60～70代の患者や、ステージの高い患者が多いため、本事業の対象者が少ないように感じる。</p>
アンケート結果	・1名「どちらともいえない」を除き全ての患者が「良かった」または「大変良かった」。主な理由は「治療日時の選択肢が増え、ある程度御自身の都合に合わせることができたため」。	・感想はいずれも「大変良かった」。理由は「仕事のことや職場に気兼ねせず、気持ちに余裕をもって治療ができたため」「治療日時の選択肢が増え、ある程度、自身の都合に合わせることができたため」

## 【平成31年度：患者数実績（延数）】

		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
立川病院	平日夜間	0	17	34	30	81
	休日	0	0	0	0	0
駒込病院	平日夜間	0	0	0	0	0
	休日（日帰り入院）	0	2	0	0	2